

令和6年度

運営に関する計画 (最終評価)



大阪市立五条幼稚園

大阪市立五条幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- コロナ禍が明け、子どもたちは園内外で思い切り遊ぶ姿が見られるようになった。そこで、園内外の環境を見直し、改めて安全に遊べるような環境を整えていくことが最優先課題として考えられる。また、人との関わりが希薄化した生活を送ってきた実態を踏まえ、同年齢、異年齢での多様に関わる機会をもつ必要性がある。全教職員で全園児の成長を見守り、促していくために、教職員でチームとなり、連携して、幼児一人一人の自己肯定感を高めていきたいと考える。
- 様々な個性をもつ子どもたちが共に生活していく中では、自分らしさを発揮し、主体的に活動する力が求められる。教師は個々の実態に応じた関わり方や援助をするために、深い幼児理解を基盤に教育内容の工夫をしていかなければならない。また、生活習慣の自立において戸惑っている保護者の実態やニーズに応えるため、幼稚園での子どもの育ちを伝え、保護者が子育ての喜びを感じながら、幼稚園と共に成長を喜び合えるように家庭と連携していきたいと考える。
- コロナ禍で希薄になっていた地域とのつながりを再度見直すと共に、時代に応じたつながり方を工夫していかなければならない。そして、子どもたちは様々な人と関わる中で地域の一員であることを感じていってほしい。また、幼稚園での子どもたちの姿や育ちを保護者や地域へ分かりやすく発信し、実践を通して伝えていくことで、地域の公立幼稚園としての役割を果たしていきたいと考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「子どもは、喜んで登園し、集団生活の中で充実感を味わっている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「幼稚園は、発達段階に応じた教育内容をすすめるために、教員の資質向上を図っている」
 - ・「子どもは、健康な生活に関心をもち、体を十分に動かし、生活に必要な活動を自分でしようとしている」

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で95%以上とする。
 - ・「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信し、連携している」

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

園の年度目標

- 令和6年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で90%以上とする。
 - ・「幼稚園は、子どもたちが安心し、安全に遊べる環境を整えている」
 - ・「子どもは、喜んで登園し、様々な人との関わりを喜んでいる」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

園の年度目標

- 令和6年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で90%以上とする。
 - ・「幼稚園は、個々の幼児を理解し、教員の資質向上を図り、発達段階に応じた教育内容をすすめている」
 - ・「子どもは、健康な生活に関心をもち、生活に必要な活動を自分でしようとしている」

【学びを支える教育環境の充実】

園の年度目標

- 令和6年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で90%以上とする。
 - ・「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信している」
 - ・「幼稚園は、近隣の学校園等と関わりをもてるように連携を図っている」

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・「安全・安心な教育の推進」について、保護者アンケートの肯定的な回答は99%であった。子どもたちが保護者から離れて過ごす初めての集団生活の場であることから、幼稚園は安心・安全な場所であることを最優先に位置づけた。改めてこれまでの環境を見直し、子どもたちの実態に応じた環境を整えることが、安心・安全な生活の基盤となった。また、その環境の中で教職員がチームとなり、クラスの枠を越えて一人一人の育ちを支えてきたことで、子どもたちはありのままの自分を発揮するようになり、安心してのびのびと幼稚園生活を送ることにつながった。
- ・「未来を切り拓く学力・体力の向上」について、保護者アンケートの肯定的な回答は99%であった。日々綿密な保育計画をたて、個と集団のねらいを明確にし、実践と反省を重ねながら保育に取り組んだ。その結果、教師一人一人が自身の保育を振り返り、成果と課題を明日の保育へと生かし、資質向上を図ることができた。また、子どもたちの基本的な生活習慣について、実態に即した保健指導を積み重ねると同時に、保護者と連携しながら健やかな生活習慣を身につけることができた。
- ・「学びを支える教育環境の充実」について、保護者アンケートの肯定的な回答は100%であった。近隣の学校や地域の方への積極的な働きかけにより、つながりを維持したり、再開したりすることができ、自分の住む地域について愛着をもつ機会となった。また、保護者に保育のねらいや遊びの経過、子どもの育ちを見る視点を伝え続けたことで、成長を共に喜び合うことができた。教職員・保護者・地域が連携し、子どもたちの育ちを支えたことが、一人一人の自己充実につながったと考える。

(様式2)

大阪市立五条幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 園の年度目標 ○ 令和6年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で90%以上とする。 ・「幼稚園は、子どもたちが安心し、安全に遊べる環境を整えている」 ・「子どもは、喜んで登園し、様々な人との関わりを喜んでいる」	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 子どもたちが安心して園生活を送れるよう園内外の環境を見直し、改善を図る。 指標 ・月1回以上、安全点検を実施し園内外の環境を把握し、活用法を考える。	A
取組内容②【2 豊かな心の育成】 教職員間の連携を図ることで更なるチーム保育の質の向上を目指し、子ども一人一人の自己肯定感の高まりへとつなげる。 指標 ・月1回以上、クラスをこえて、いろいろな友達と交流する場を設ける。 ・月1回以上、教職員間で子どもの実態や育ちを共有する機会をつくる。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 ○毎月、学期始まりに全教職員安全点検を実施し園内外の環境を把握し、見直し、共通理解を図り、不良個所を見つけた場合は、迅速に補修や修理を行い、安心して遊べる環境整備を継続した。 子どもたちが開け閉めするドアや窓などに緩衝材をつけたことで、手や指を挟むけがを未然に防ぐことができた。また、自転車やスクーターの走行場所や走行方向、土山や砂場での遊び方など、園庭で安全に遊ぶ時のルールを教職員及び預かり保育指導員で共通理解し、安全の確保を行った。さらに子どもが自ら安全に気を付けられるよう、遊具や自転車、スクーターなどの置き場を絵で表示したり、種類別に整理したりして、視覚的に分かりやすく整えた。また、園庭で遊ぶ時のルールを繰り返し知らせることで、未然に衝突などの事故やけがを防ぐことにつながった。また、子どもの自転車用のヘルメットを用意すると、登降園時や家庭での着用経験もあり、自らヘルメットをかぶる姿があり、より安全に遊べるようになった。ブランコや雲梯の下に安全マットを設置し直し、ブランコ周辺にも柵を設置した。更にブランコの柵には待機場所や出入口、動線など子どもたちが分かりやすいように表示したことで、子どもたちも安全に遊ぶことができるようになった。 3学期始業式・保護者会で天王寺警察の方による安全指導を実施した。保護者に向けて自転車のながらスマホや酒気帯び運転、ヘルメット着用についての話をしていただき、登降園時の安全を啓発することができた。 本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、子どもたちが安心し、安全に遊べる環境を整えている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

取組内容②【2 豊かな心の育成】

○月1回以上、クラスをこえて、様々な友達と交流する場を設けた。

4月は5歳児が新入園児に身支度や弁当の準備の仕方、発育測定の方法など、教えたり手伝ったりすることができるように日々の関わりを積み重ねた。新入園の子どもたちは少しずつ自分でできるようになることに喜びを感じ、5歳児は、3歳児や先生にありがとうと言ってもらえたことで年長児としての自覚や自信へとつながった。3・4歳児は空き部屋（なかよしの部屋）を活用し、いつでも交流できる環境を整えてきた。ダンスをしたり、ごっこ遊びをしたり、互いのクラスの遊びに興味をもち、一緒に楽しむ中で、親しみが深まっていった。5歳児は2クラスで、行き来しやすい雰囲気づくりをしてきたことで、クラスをこえて誰とでも遊ぶ姿につながった。運動会では、2クラスで考えを出し合い、共通の目的に向かって心を一つにしたり、リレーでは良きライバルとなり、刺激し合ったりしながら共に成長することができた。また、運動会や生活発表会にも、異年齢一緒にのプログラムを取り入れ、触れ合いを通してより信頼感が増すように内容を工夫した。

運動会後は、全クラスでバルーンをする機会をつくると、5歳児が3・4歳児に教えながら遊ぶ中で、3・4歳児が喜んで遊んでいる姿を5歳児はあたたかく見守り、優しくサポートする思いやりの気持ちが育まれた。リレーに誘い合い、ルールを教えて一緒に遊ぶ姿や5歳児のチャレンジ遊び（運動遊具での遊び）に憧れ、3・4歳児が自転車や縄跳びなどにも挑戦しようとする姿につながった。生活発表会後は、子どもが主体的に自由にクラスを行き来しながら一緒に他クラスの劇遊びや楽器遊びを楽しんだ。5歳児が進んで見本を見せたり、手をもったりする関わりの姿から優しさや思いやりの気持ちが伝わり、異年齢交流の育ち合いが見られた。

園外保育に向けて5歳児と3・4歳児がペアになり、事前事後の活動内容を工夫して、一緒に弁当を食べたり、ふれあい遊びをしたりしたことで、親しみの気持ちや信頼関係が深まった。

このように教職員間で連携をとり、日常的にクラス間で交流を重ねてきたことで、子ども同士の自然な関わりが多く見られ、人と関わる力が育まれた。誕生会では毎月担当のクラスが、表現遊びを発表したり、歌を披露したりして、多くの友達の前で発表する場となったことで、見てもらう喜びが自信や満足感となり、生活発表会での表現につながった。

修了や進級に向けては、これまでの周りの人への感謝の気持ちや、仲間同士のつながりなど、互いに伝え合える保育を工夫することができている。教職員間での連携を密にし、安心して自己発揮できる環境づくりに努めてきたことが、一人一人の子どもの自己肯定感の高まりへとつながっている。

○月1回以上、教職員間でクラスや一人一人の様子を語り合い、日々の育ちを共有し、喜び合ってきた。

実態把握し、個に応じた援助の方法を探ったり、子ども同士の関係性を伝え合ったりしてきたことで、全職員で成長を喜び合うことが働きがいとなっていった。また、クラス間で交流を重ねる中で、他クラスの実態を知ることができ、同じ方向を向いて子どもを育むチーム体制が向上した。

本園の保護者アンケートの結果により、「子どもは、喜んで登園し、様々な人との関わりを喜んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が98%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】

引き続き日々安全点検を行い、迅速に確実に共通理解を図っていく。また、日々のケガの様子を教職員間で共通理解しながら、その数を0に近づけられるようにする。

取組内容②【2 豊かな心の育成】

次年度もチーム五条として教職員間で連携を図り、子ども一人一人の自己肯定感の高まりへとつながるような保育内容を工夫しながら教師の資質向上を図る。

(様式2)

大阪市立五条幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 園の年度目標 ○ 令和6年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で90%以上とする。 ・「幼稚園は、個々の幼児を理解し、教員の資質向上を図り、発達段階に応じた教育内容をすすめている」 ・「子どもは、健康な生活に関心をもち、生活に必要な活動を自分でしようとしている」	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 大阪市就学前教育カリキュラムを活用し、個々の発達段階に応じた教育内容を考え、主体的に活動できるように環境や働きかけを工夫しながら、幼児理解を深める。	A
指標 ・毎週、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用して週案を作成し、子どもの姿や育ちを記録する。 ・年4回以上、就学前教育カリキュラムを活用して園内研究保育を実施し、討議を行う。	
取組内容②【5 健やかな体の育成】 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でしようとする意欲を育むための指導を工夫する。	A
指標 ・月1回以上、視覚教材を使用し発達段階や実態に応じた保健指導を行う。 ・学期に1回以上、様々な方法で生活習慣についての保護者啓発を図る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 ○毎週、各担任が幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用して、五条幼稚園教育課程や指導計画を基に週案を作成すると共に、子どもの姿や育ちを記録し、多様な幼児理解を深めることができた。 目の前の子どもの実態に応じて幼稚園教育要領の5領域や就学前教育カリキュラムの知・徳・体の視点から、遊びの中の学びを探り、教師の教育的意図をもった働きかけを毎日検討してきた。これらを継続して取り組むことにより、保育のねらいを明確にもち、評価・反省を次週に生かしながら、個と集団の育ちを導くことができた。また、子どもの実態や興味・関心に応じた見通しをもった保育を展開することで、遊びや活動が途切れることなく豊かに継続し、主体的に遊ぶ姿につながった。さらに、子どものつぶやきや姿を丁寧に記録することで、一人一人の心の変容や育ちを捉えることができ、教師の幼児理解が深まり、保育の質の向上を図ることができた。

○毎月の誕生会を園内研究保育として位置づけ実施し、教育の質の向上を図った。

司会担当の教師が中心となり、事前の打ち合わせ、事後の反省会を綿密に行い、意見を出し合い、成果と課題をその後の保育や翌月の誕生会に生かした。就学前教育カリキュラムを活用し、発達段階を踏まえ、子どもの実態に沿った内容や時間配分を考え、教師主導ではなく、子どもと共に企画立案実施振り返りなどに取り組んだ。誕生会の事前事後活動や、誕生会中の子どものつぶやきや姿を捉えることを大切にするこゝで、子どもの主体性を引き出すことができた。また、教職員一人一人がねらいを基に課題意識をもち、臨機応変に動くこゝで自分の立ち位置に気付き、連携の重要性を学ぶことができた。一年間を通して毎月の積み重ねにより、祝いしたりお祝いしてもらったりする喜びを感じ、一人一人の自己肯定感が育まれていった。

本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、個々の幼児を理解し、教員の資質向上を図り、発達段階に応じた教育内容をすすめている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

取組内容②【5 健やかな体の育成】

○月1回以上、子どもの発達を考え保健指導を実施することができた。

発育測定や体重測定、学級活動の時間を活用し、各学年に即した指導教材や内容を工夫したこゝで、子どもたちは、自分の体について知り、基本的な生活習慣を意識できるようになった。手洗いうがい、歯みがき、食事、排便に加えて、自らの体に興味・関心をもてるよう、体の名前や骨についての話も行った。また月1回、養護教諭が課題に応じて子どもたちの生活に沿った絵本を読み聞かせすることで、自分の体や食べ物に対する興味・関心も深まった。保健指導が一過性に終わることがないよう日々の生活の中で自分の身の回りのことを自分でしようとする姿を個別に認めたり、励ましたり、見守ったりするなど、日々積み重ねてきたこゝで、生活に必要な活動を自分でしようとする主体性が育まれた。さらに担任と連携することで習慣を定義させることができた。

発達段階を捉え、衣服が濡れたり汚れたりしたら着替えをする、靴を履く、脱ぎ着した服をたたむ、トイレで排泄をする、お弁当を食べる、手を洗う、歯みがきをするなど、基本的な活動を知らせることから始め、徐々に細かい内容を伝えるように工夫したことにより、習慣として身についていった。幼稚園での様々な経験を通して、先生や友達と一緒に生活する中で、認め褒められるこゝで少しずつ生活リズムや規則正しい生活習慣の意味や効果を感じた。

○学期に1回以上、生活習慣についての保護者啓発を行った。

毎月の保健だより発行に加え、始業式や終業式後の保護者会で園での子どもの様子を口頭で知らせた。保護者にも健康な生活や規則正しい生活習慣に関心をもってもらうよう啓発したこゝで、自分の子どもの生活リズムを振り返り見直すきっかけとなった。また、長期休業中には「健康カレンダー」を出し、歯みがきの仕上げ磨きや食べた野菜の絵を子どもと一緒にかくなど、保護者も子どもと一緒にできるような取り組みを行ったこゝで、家庭での歯みがきや食事を見直す機会になった。冬休み前には手洗い表を配布して感染症予防を呼び掛けたこゝで、家庭での感染症予防の意識が高まったとともに、幼稚園での感染症が拡大することなく、幼稚園生活を元気に過ごすことができた。年間を通して生活習慣の自立に向け、保護者の思いを受け止めながら、具体的に何をどのようにしていったらよいか、一緒に考えたり、アドバイスしたりすることで信頼関係を築くことができた。その中で、共に子どもたちの健康と成長を見守り、喜び合うことができた。

本園の保護者アンケートの結果により、「子どもは、健康な生活に関心をもち、生活に必要な活動を自分でしようとしている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が99%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】

今後も、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用して、子どもの実態を大切にしながら一人一人により添った支援を考え、主体性を引き出せる保育を工夫し、質の高い幼児理解を探究していきたい。

取組内容②【5 健やかな体の育成】

今後も子どもたちの実態に合わせた保健指導を行うとともに保護者啓発し、子どもの成長を共に喜び合える関係を築き、親育てを行っていく。

(様式2)

大阪市立五条幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 園の年度目標 ○ 令和6年度の本園アンケート調査で、以下の項目について、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と回答する保護者の割合を全学年で90%以上とする。 ・「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信している」 ・「幼稚園は、近隣の学校園等と関わりをもてるように連携を図っている」	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】 近隣学校園や地域と連携する中で、様々な人との関りを深めたり、地域を知ったりして、自分が地域の大切な一員である気持ちを育む。	A
指標 ・年3回以上、近隣の学校園等と交流する。 ・年3回以上、地域の人々や身近な施設について知る機会をもつ。	
取組内容②【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】 家庭、地域へ向けて幼稚園教育の役割と意義を発信し、重要性を理解してもらう。	A
指標 ・月1回、保育室から降園する機会をもち、日々の幼児の育ち感じてもらえるようにする。 ・月1回、クラスだよりや園長室だよりを発行し、活動のねらいや子どもの育ち、教師の教育的意図をもった働きかけを発信する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】 ○4月1回、5月1回、11月2回、2月1回近隣学校園等との交流に加え、4月5月6月9月10月11月12月に地域の桃丘会館を訪れ、お年寄りとの関わりを積み重ね親睦を深めた。さらに近隣の四天王寺(5月)、天王寺図書館(12月)を訪問し、地域の歴史や伝統を知る機会となった。 とりわけ5月四天王寺への園外保育では、地域の歴史や文化にふれることができ、隣接する大阪市立大江幼稚園へも足をのばし交流した。同い年の友達の存在を知り、同じ地域の一員として顔見知りになる有意義な体験となった。引き続き5歳児は地域の七夕の夕べin四天王寺(7月)、天王寺区民まつり(10月)、大阪市立幼稚園音楽会(11月)で一緒に歌を歌う経験により違う園の友達を思う心も育まれた。そして1月には本園に招くと、「知ってるよ」「この前一緒に歌うたったね」という声が聞かれるなど、心のつながりができた。 11月、5年ぶりに大阪市立夕陽丘中学校2年生の職場体験を実施し、中学生と交流した。子どもたちは中学生と遊ぶ楽しさを感じ、同じ地域に住むお兄さん、お姉さんへ親しみの気持ちをもち、喜んで関わる姿から地域の仲間として憧れの存在を感じていた。また、大阪府立夕陽丘高等学校へ出かけ、保護者と共に本格的なホールで吹奏楽部の生の音

楽を聴くと、本物の楽器の音色に耳を傾け楽器演奏への憧れの気持ちをもち、直接体験を通して豊かな感性が育まれた。多様な人との関わりが心をつなぐ機会となり、自分の地域を知り、大切にしてもらっていることを実感する機会となった。

2月の大阪市立五条小学校や大阪市立桃陽小学校との交流では、事前の担任同士の顔合わせを行うことができ、教員同士のつながりをもつことができた。活動内容についても、互いのことを知るブレイクタイムを設けることで、小学生や小学校の先生への親しみの気持ちをもつことができた。

桃丘会館訪問では、地域の高齢者の方々との関わりを通して、愛情を感じると同時に、幼稚園を大切に思い見守ってくださっていることへの感謝の気持ちをもつ貴重な体験となった。

本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、教育内容や子どもの育ちなどを様々な方法で保護者や地域に発信している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

取組内容②【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】

○月1回、降園時を活用して、担任から直接子どもたちの姿や日々の育ちや教師の願いを伝えることができた。

子ども一人一人の育ちに加え、クラスとしての育ち、そこにつながる遊びの経過を具体的に伝えることで、幼児期における遊びの大切さや育ちにつながる学びの芽を保護者と共有した。様々な遊びや活動の意義を理解してもらえるよう、日々の遊びの中での目に見える育ちだけでなく心の育ちも伝えることで、全ての活動は子どもの心身の育ちにつながっていることが共通理解でき、子どもたちの育ちを共に喜び合うことができた。

○月1回、クラスだより及び園長室だよりを発行し、活動のねらいや子どもの育ち、教師の教育的意図をもった働きかけや子育てを応援する内容を発信した。

就学前教育カリキュラムの知・徳・体や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点を踏まえ“遊びの中の学び”を明確にしてクラスだよりを作成し、発行した。1つの遊びや活動に焦点をあてることで、子どもの育ちや学び、教師の願いや教育的意図をもった働きかけを大切にしていることが分かりやすく伝わった。子どもを見る視点や評価の観点を知らせることで、少しでも子育てに喜びを感じてくださる保護者が増えた。写真を交えることでイメージをもちやすくなり、保護者からは「楽しみにしている」という声が聞かれた。遊びの過程を大切にしていることやその中で学びが育まれることを発信することにより、保護者は結果以上に遊びの過程に着目してくださるようになった。

本園の保護者アンケートの結果により、「幼稚園は、近隣の学校園等と関わりをもてるように連携を図っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%となった。このような点から、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

取組内容①【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】

今年度の経験を活かし、近隣の学校園等への積極的な働きかけにより、連携を図ると共に内容の検討を進んで行っていく。また、地域の活動への参加、様々な地域の人々や施設との交流なども計画的に、取り組んでいく。

取組内容②【9 家庭・地域との連携・協働した教育の推進】

引き続き保護者に子どもたちの育ちを分かりやすく伝える工夫を凝らし、子どもの育ちを共に喜び合える関係を築き、信頼される園を目指していく。